

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：貿易統計（2006年1月）

発表日：2006年2月23日（木）

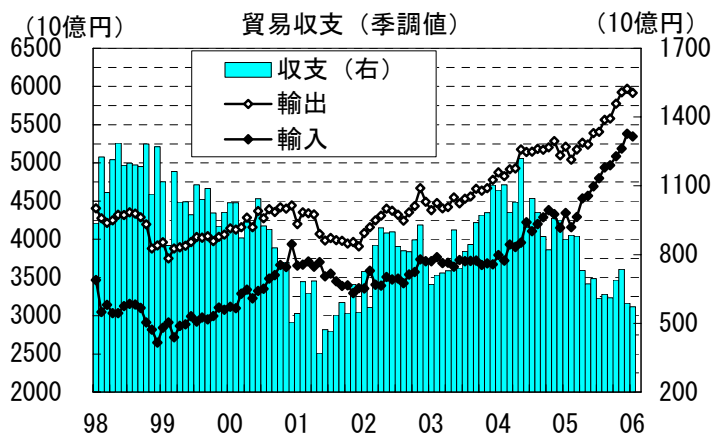
～貿易赤字も心配なし。輸出は増加傾向が明確～

(No. J-236)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 新家 義貴

TEL：03-5221-4528



(出所：貿易統計・財務省)

(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
05年1月	867	5212	4345	194
2月	885	5042	4157	1090
3月	880	5174	4294	1119
4月	730	5264	4534	958
5月	672	5239	4567	293
6月	696	5388	4692	869
7月	610	5408	4798	869
8月	627	5566	4939	112
9月	612	5581	4969	953
10月	689	5776	5087	818
11月	736	5925	5189	596
12月	588	5970	5382	912
06年1月	572	5917	5345	-349

(出所：貿易統計・財務省)

前年比	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
04年12月	8.8	5.9	2.7	0.5	3.2	6.8	11.1	8.1	2.8	16.6	▲0.3	4.5
05年1月	3.2	6.5	▲3.1	▲5.2	▲14.6	▲1.5	11.4	8.7	2.5	▲0.5	4.2	4.9
2月	1.7	6.1	▲4.2	2.3	▲6.7	▲3.7	11.4	6.6	4.5	4.5	▲3.4	12.2
3月	6.1	4.9	1.1	3.4	▲9.2	1.0	7.7	6.0	1.6	▲1.2	▲5.1	4.7
4月	7.8	9.3	▲1.4	0.8	▲2.5	▲1.9	12.8	13.4	▲0.6	▲4.2	2.5	2.7
5月	1.4	4.0	▲2.5	2.0	▲7.8	▲5.0	18.7	9.2	8.7	6.8	3.5	11.0
6月	3.6	3.1	0.5	2.4	▲8.8	▲0.6	11.1	8.9	2.0	▲0.1	▲2.3	6.0
7月	4.3	5.1	▲0.8	▲1.0	▲2.8	▲4.5	11.7	12.4	▲0.6	7.1	▲4.8	▲1.0
8月	9.1	7.0	2.0	3.6	▲1.2	1.0	21.3	11.1	9.2	8.9	6.6	12.7
9月	8.8	7.4	1.3	3.4	▲2.7	▲3.1	17.5	13.1	3.9	3.9	4.8	3.8
10月	8.0	5.5	2.3	3.9	▲1.4	▲1.5	17.9	15.2	2.3	▲13.9	0.3	7.4
11月	14.7	7.6	6.6	4.8	▲0.6	4.2	16.7	19.3	▲2.1	▲2.3	▲0.9	0.3
12月	17.5	10.6	6.2	6.4	▲1.8	3.4	27.4	24.8	2.1	10.8	▲1.1	3.8
06年1月	13.5	6.5	6.6	11.9	4.2	1.9	27.0	18.2	7.5	3.5	▲0.4	10.0

○ 貿易赤字だが心配なし

1月の貿易収支は▲3,489億円（原数値）の赤字となった。貿易赤字は2001年1月以来5年ぶりのこととなる。もっとも、貿易赤字自体は事前に予想されていたため、特に意外感はない。赤字の最大の要因は、原油価格高止まりの影響で輸入金額が前年比+27.0%と大幅に増加していることであり、輸出が悪化したためではない。また、例年1月は正月休みの影響により原数値でみた貿易黒字の水準が低く、比較的赤字になりやすい月でもあるので、今月の赤字転化を深刻に受け止める必要はないだろう。後述するように輸出は引き続き堅調に推移しており、むしろ良好な内容と判断できる。

貿易黒字の先行きについても特に心配する必要はなさそうだ。まず輸出に関しては、足元で改善傾向を明確化させており、当面大きな懸念材料はない。また、輸入に関しては、今後も高水準での推移が続くと予想されるが、原油価格のさらなる急上昇といった事態を想定しなければ、伸び率でみると徐々に鈍化してくる

だろう。したがって、貿易黒字は振れを伴いながらも緩やかに持ち直してくると予想される。

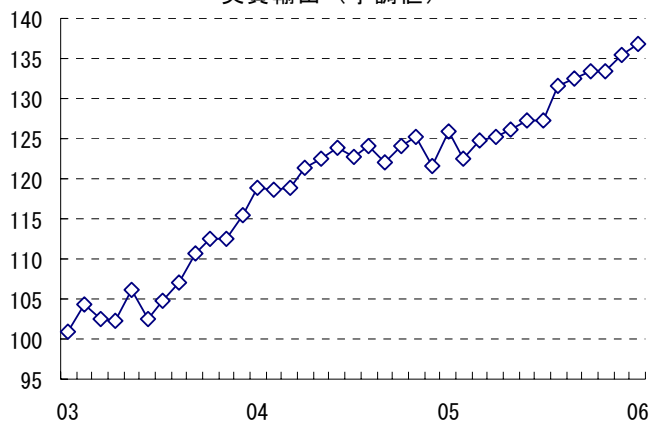
○ 輸出は増加傾向が鮮明

日本銀行が試算している実質輸出は前月比+1.0%と2ヶ月連続で増加した。1月は旧正月要因で輸出は落ち込むと予想していたのだが、実際には1月の輸出は予想以上に堅調に推移している。足元の輸出の強さを裏付ける結果といえるだろう。また1月の実質輸出の10-12月期比は+2.0%と、10-12月期の高い伸びの後にもかかわらずプラスとなっており、1-3月期の滑り出しとしては上々の結果だ。

なお、1月の実質輸入も10-12月期比+4.2%とかなり高い伸びになっている。10-12月期GDPでは輸出が大きく増加した一方で、輸入が一時的に減少したことから、外需寄与度は+0.6%ポイントとGDPを大きく押し上げたが、1-3月期に関しては、輸入が再びプラスに転じることから、外需のプラス寄与は大幅に縮小（もしくはマイナス寄与）することが予想される。だが、輸入の増加は国内生産活動の活発化の反映であり、このことを否定的に捉える必要はない。民間シンクタンクが公表している経済見通しでも、成長率は軒並み大幅上方修正されており、景気は予想以上に堅調に推移していることが改めて確認された。日本経済は、内外需のバランスがとれた形で成長を続けている。

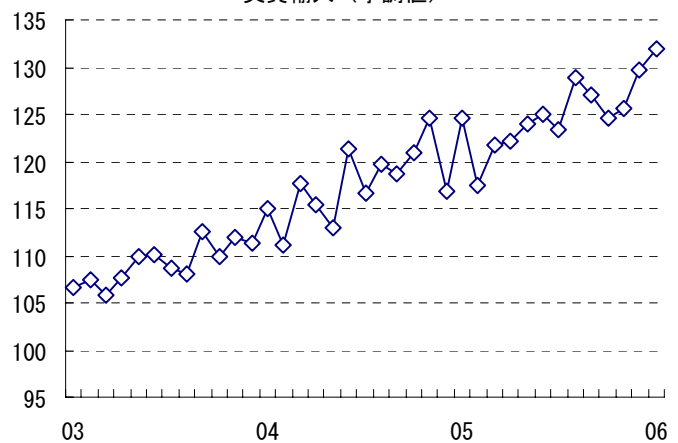
輸出の内訳では、中国向け輸出は減速したものの、米国、EU等、他地域向けへの輸出が好調だった。財別では特にIT関連財と自動車の回復が目立つ。輸出の動向に5ヶ月程度先行する傾向のあるOECD景気先行指数（6ヶ月前比年率）を見ても2005年12月まで8ヶ月連続で改善するなど、輸出を取り巻く環境は良好だ。今後についても、米国、アジアを中心として世界経済が底堅く推移すると予想されることから、少なくとも2006年前半に関しては好調な推移が続くと思われる。

実質輸出（季調値）



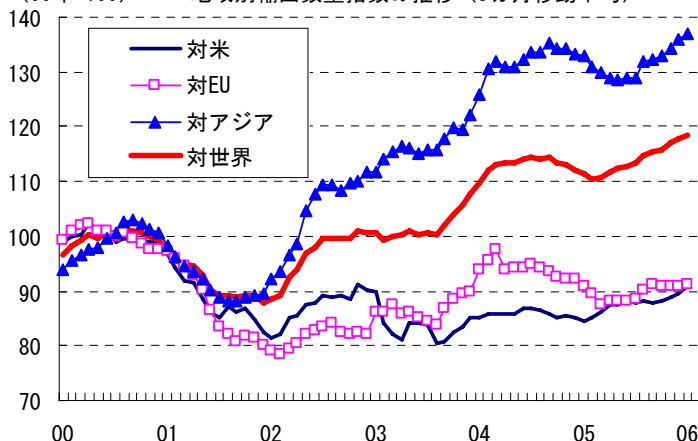
(出所) 日本銀行「実質輸出入」

実質輸入（季調値）



(出所) 日本銀行「実質輸出入」

(00年=100) 地域別輸出数量指数の推移 (3ヵ月移動平均)



(%) 輸入金額の要因分解 (前年比)

